

令和6年度第2回佐世保市子ども・子育て会議分科会(施策2) 議事録(要約版)

日時: 令和6年10月22日(火)19時00分～20時30分

場所: 中央保健福祉センター(すこやかプラザ)4階「子ども未来部健診室」

議事(1)次期「させぼっ子未来プラン」の策定について

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
資料1のP10計画の対象、「施策によっては40歳未満までを対象とする場合がある」と記載があるが、子育ての施策に関しては、30歳未満という理解でいいか。 また、この記述は何に対応した記述になっているのか教えて欲しい。	国のこども大綱の中で、こども・若者の定義づけがされているが、本市において策定する計画で、30歳・40歳の方を対象とするのかという難しい面がある。 しかし、「居場所」というキーワードがあり、一般的に我々は、児童センターや児童クラブ、地域子育て支援の事業所を居場所としている。 なお、国は、対象となる方を広げており、それに対して、我々はどうか定義していくか課題と考えている。 現在、コミュニティセンターの一部をコミュニティスペースとして、定義づけができないか検討しており、その場合は対象となる年齢の幅は広くなると考えている。
資料1のP20居場所づくりの所に、子だけでなく「親」についても記載されているのは良いことだと思う。 PTAでは不登校の相談も受けており、困っている保護者の方も多い。 不登校の子どものケアとして、あすなる教室をサテライトとし、支所やコミュニティセンターを使用し授業が行われたことに対し、保護者から非常に好評だった。 保護者に寄り添えるような場所があればいいなと思っている。	子どもたちの居場所づくりについて、例えば、コミュニティセンターを建て替えする場合、コミュニティスペースをあらかじめ組み込んで計画することとなる。 既存の施設も工夫しながら、建て替え時はコミュニティスペースを設けて施設を複合化していこうという方針ではある。 また、不登校の子どもの居場所というのは非常に難しい課題であると考えている。 教育委員会青少年教育センターにおいては、現在、あすなる教室を設置しているが、不登校の子どもについても、居場所を作りたいという話はあっている。
コミュニティを広げるという点で、以前から気になっていたのは、放課後児童クラブに通っていた子どもが、中学生・高校生になったとき、居場所が少ないのではないかと常々感じていた。 部活などで居場所を見つける子どももいるが、そうではない子どもたちの居場所もどこかにあってほしい。 地区のコミュニティとしての場所が、そういう子どもたちの居場所になればいいと思う。	

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
現在、勤務している職場の従業員から、会社の店舗に保育施設を作ってくれないかとの声があった。 しかし、県内に店舗を展開しており、そのなかでどこか 1カ所にだけ設置するというのは公平性を保てないため難しい。 サービス業を中心に、土日に勤務している方に対する休日保育などの支援策について、情報をわかるように発信してほしい。 企業に対して直接、情報提供してもらえると、人手不足で苦慮している中で、従業員に案内・広報など出来てありがたい。	休日保育をしている保育所・幼稚園は一部あるが、保育所も人材確保の問題などあって数は少ない。 小学生も対象となると、市民同士で助け合う事業である、ファミリーサポートセンターにおいて預かる支援もある。 休日対応している保育所や、ファミリーサポートセンターをホームページなどで紹介することは可能である。
子どもの居場所として、コミュニティセンターを活用することを検討しているということだったが、以前、地区公民館と図書館が併設されていた頃、子どもたちがそこで放課後を過ごしていた。 しかしその際、職員の業務に差し障りがあるとの事で、問題が生じていた。 コミュニティセンターのスペースを子どもの居場所とした時に、職員にも理解してもらえるよう明確にしてほしい。	過去、ご指摘のようなことがあったことは承知している。 コミュニティセンターを子どもの居場所と明確化するのは、現在は構想の段階であり、これから市として議論していく中で、課題として検討していく。 できるだけ子どもの身近な地域に、居場所を作っていきたいという考え方で進めていきたい。
資料1、P20 新規に子育て情報提供と相談体制の充実とある。 前回、これだけたくさんのサービスを行っていても、佐世保が子育てにやさしいまちだと聞かない。情報が伝わっていないのではないかという話をした。 逆に溢れる情報もある中、必要な人に必要な情報を届けなければならないので、伝え方は重要。 また、相談体制の充実はとても必要。困っている人がちゃんと相談できるよう、ぜひ頑張ってほしい。	情報発信は我々も課題と思っており、子どもが大きくなってくると、保護者が欲しい情報も変わってくると思っている。 また、情報発信にあたっては、佐世保の子ども施策を広く周知するということと、実際にサービスが必要な方へのアプローチ方法をそれぞれどのように行っていくのか、検討することが必要だと考える。 現在、DX コーディネーターの支援を受けて、情報発信の在り方を改めて検討している。 いただいた意見をできるだけ反映してより良い情報発信に努めたい。

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
こども家庭庁が言う居場所づくりの背景には、少子化の中で、虐待や子どもの自殺などネガティブな事が大変増えている事を踏まえているのではないかなと思う。 そう考えると、居場所だけ作る・行政だけに任せるのではなく、大人が寄り添う中に子どもがいて、それが居場所となる方が、子どもの居心地の良さに繋がり、そこに大人の笑顔や子どもの笑顔があるという社会が望ましいのではないかな。	検討しているコミュニティスペースも、子どもに特化したくはないと思っている。若者や地域の高齢の方も含めその空間と一緒に過ごすことで、秩序が生まれていく事に期待をしている。 本庁 13 階をコミュニティスペースという形で、時間帯は限られているが現在開放している。昼間は学生や高齢者の方もいて空間としては良いなと感じている。 理想としては、このような場所を、各地区に展開したいと考えている。 さらには、ソフト事業も合わせて展開していくのが理想だと思っている。

議事(2)次期「させぼっ子未来プラン」策定に向けた佐世保市の子どもと子育てを取り巻く現状と課題

質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
これまでも量の見込みと人数を推計で出していると思うが、予測を外したことはあるか。	直近の令和2～6年度でいうと、新型コロナの影響により、当初の見込みから外れる事業もあった。 しかし、中間年(3年目)には、前2か年の実績を踏まえて再度推計し、軌道修正を行っている。
ファミリーサポートセンターを利用するにはお金がかかるのか。 利用料が高いと利用しづらいが、一方、提供会員側にとっては、無償での対応は長続きがしないと思う。	利用料金は1時間 700 円。人口推計は右肩下がりだが、ファミリーサポートセンターの利用件数は増えている。 短時間であっても見守りを引き受けてくれ、ニーズは多い。委託先が提供会員の育成等も行い、依頼会員と提供会員のバランスが乖離する事はない。
佐世保市の一部で小学校合併の話がでている。 学校再編の計画が進むことに伴い、放課後児童クラブの合併の話が出てくると思うが、その場合、なるべく余裕を持った期間を知りたい。 学校が合併されたとしても、今まで、放課後児童クラブに通っていた子どもたちの行き場がなくならないようにしてほしい。 また、決め方もプレゼンになると思うが、公平性が保たれるような形でお願いしたい。	学校の再編は避けては通れない事だと思っている。 放課後児童クラブに関しては、まず学校があった上で、子どもの居場所を確保する事が前提となる。 教育委員会が公にするタイミングをもって、我々が知りうる情報を関係する方々にはお伝えしていきたい。 合併後すぐに現在の児童クラブがなくなるということではない。ただ、将来的に子どもが減れば、事業そのものが成り立たない。片や、新しい住宅地ができ、その学校に生徒が増えれば、そちらに児童クラブを設置ということになる。 新たに設置する場合は、手を挙げていただいた中での審査で、公平性を担保しながら進めていきたい。

議事(3)その他	
質問・意見等	事務局回答・今後の方針など
	本日の議事録は、内容を集約した上で、後日送付させていただきます、ご確認をお願いしたい。今回いただいた意見等を踏まえて、計画の骨子案を作成する。分科会長一任のもと、事務局で整理し、お示しさせていただく。 分科会は今回で終了。今後は、全体会の開催について、改めて日程調整をお願いし、ご案内をさせていただく。